



吉もりよし 登山ガイド



山開きの行われた「様田コース」をご紹介します。
山頂へは、8ルートありますが、5合目付近の「こめつが山荘」まで車で行ける「様田コース」は、7合目の一ノ腰、前岳・森吉神社を経由して山頂を目指すコースで、子どもや年配者が比較的気軽に登れると人気があります。こめつが山荘（自炊宿泊1、470円、休

憩無料、申し込み・お問い合わせは妖精の森 ☎76 2107）は、このコースの登山ベースとなります。
このコースの他にも「阿仁ブナ帯コース」「奥森吉ヒバクラコース」などの人気コースがありますので、詳しくは「北秋田市商工観光課 ☎62 6639」へお問い合わせください。

霊峰「森吉山」のみちかな歴史 「嶽まいり」

古来から「秋田山」とも称され、人々から敬われた「森吉山」。悠久の歴史の一部分を「嶽まいり」というタイトルで鈴木正和さん（米内沢神社神官）が旧森吉町の広報（昭和61年）に執筆されています。抜粋してご紹介いたします。

古くは、比企ヶ嶽・黒岳・向岳・秋田山とも呼ばれたが、地元では単に「ダケ」とも言う。旧暦四月八日は森吉神社の祭典であり、本城の頭巾頭和乗院の指示の下、獅子が麻生から打当までを祭典以前の期間に廻り、また多くの血気の青壮年が「嶽まいり」と称し、七日間の精進みそぎの上、村ごとに隊を組んで遠近より集まり、夜明け前から入山を開始し、氷雪を踏んで登はん、山頂にて御来光を仰ぎ、森吉神社に詣で御札をいただき、必ず自生のモロピの小枝を手折って下山した。

嶽まいりは、別称「モロピ詣」「モロピワケ」とも言われ、モロピが大きな役割を持つ。オオシラビノ・オオリユウセン・別名アオモリトドマツとも称され、本州中部以北亜高山帯に見られる常緑針葉樹である。

現在の進歩した生活や農業耕作と違って、先人の生活や農耕は一層難儀をともなっていたため「嶽まいり」の姿には、真剣と謙虚と喜びが深かったであろう。

モロピは、今は高山植物として自然保護の立場から、一切とることが出来なくなった。また「嶽まいり」も、ここ数十年絶えているが、復活の話もある。

嶽まいりの行われたのは旧暦の4月8日、新暦でいうと今年5月15日になります。まさに今、この時期の行事だったんですね。